

令和5年度 第2回東北森林管理局保護林管理委員会 議事概要

■日時：令和6年2月20日（火）13:30～15:45

■場所：東北森林管理局 4階第3会議室（WEB、対面併用方式）

■議題

（1）審議事項

- ア 令和5年度 保護林モニタリング調査結果について [資料1]
- イ 令和5年度 緑の回廊モニタリング調査結果について [資料2]
- ウ 令和6年度 保護林モニタリング調査計画について [資料3]

（2）報告事項

- ア 早池峰山周辺への防鹿柵の設置の見直し等について [資料4]
- イ 稲庭田子風力発電事業の進捗状況について [資料5]

■議事概要

（1）審議事項

- ア 令和5年度 保護林モニタリング調査結果について [資料1]

今年度実施した保護林モニタリングの調査結果及び評価について説明し、委員から保護林をより適切に保全していくためのご助言をいただいたほか、調査結果や調査間隔等についてご了承をいただいた。

【委員からの主な意見】

・夏瀬ヒバ希少個体群保護林で散見されたてんぐ巣病被害について

てんぐ巣病によって樹木全体が枯死するということは考えにくいですが、今後てんぐ巣病が深刻化するようであれば、中間宿主（カンバ類の葉。ただし、中間宿主を経ない生活環も存在する。）が必要な病気であるため、中間宿主の状態に注意する必要がある。

・保護林における自動撮影カメラ調査、鳥類の調査について

今回いくつかの保護林において動物調査が行われているが、調査をする・しないの判断基準はあるのか。

【事務局】

- ・森林生態系保護地域と生物群集保護林については、予算が許す範囲で動物調査を行っているところである。過年度の調査で動物調査を行った調査プロットがあれば基本的に動物調査を行っているほか、予算に余裕があれば追加で調査できるよう仕様書に組み込んでいる。希少個体群保護林についても動物

調査を行いたいところではあるが、調査マニュアルには動物調査の項目が含まれていない。今回、初めてとなる鳥類の調査を五葉山生物群集保護林において行ったが、その目的はニホンジカの食害による下層植生の変化に伴い、ウグイスやヤブサメといった低木層や林床に生息する種に変化が生じないかモニタリングするためである。

イ 令和5年度 緑の回廊モニタリング調査結果について 【資料2】

今年度実施した緑の回廊モニタリングの調査結果及び評価について説明し、委員から緑の回廊をより適切に保全していくためのご助言をいただいたほか、調査結果についてご了承をいただいた。

【委員からの主な意見】

- ・自動撮影カメラで撮影できる動物種には限りがあると思うが、自動撮影カメラで撮影しにくいコウモリなどの調査をする予定は無いか。

【事務局】

- ・コウモリ類はどこを餌場にしたりねぐらにしたりしているか、ということが絞りにくいいため調査が難しい。現状としては調査マニュアルにしたがって自動撮影カメラによる調査のみ行っているところであり、今のところコウモリ類に特化した調査を行う予定は無い。

ウ 令和6年度 保護林モニタリング調査計画について 【資料3】

来年度実施予定の保護林モニタリング調査箇所等について説明し、ご了承をいただいた。

【委員からの主な意見】

・クマについて

今年度はツキノワグマの出没が相次ぎ、人的被害も多く発生した。この状況を踏まえ、現状の自動撮影カメラを用いた調査によるクマの撮影個体数は生息密度の指標として使えるため、クマについては撮影個体数をカウントして定量的に経年変化を追っていくとよい。

・ニホンジカについて

今回の調査でオスとメスの比率を出しているが、生息密度の指標として重要と考えられるので、是非今後も行ってもらいたい。また、一枚の写真の中に最大何頭撮影されたかというデータについても、生息密度の指標として有用であるため経年変化を追っていくとよい。

(2) 報告事項

ア 早池峰山周辺への防鹿柵の設置の見直し等について 【資料4】

早池峰山周辺において現在設置されている防鹿柵について、今後の管理方針を報告した。

イ 稲庭田子風力発電事業の進捗状況について 【資料5】

緑の回廊内における環境への配慮事項や生物多様性の保全対策等について、令和2年7月の保護林管理委員会における委員からの意見に対する対応を含めて報告した。

(以上)